

私は10年以上、狹山事件、袴田事件に関わった関係で、冤罪犠牲者の会の役員をしております。昨年、袴田事件の再審無罪決定を受け、いよいよ今年こそ、狹山事件の石川一雄さんの番と思いきや、彼は3月11日急逝されました。冤罪を背負って逝った石川一雄さんの無念さは、残された早智子さんと共に、私たち全国民の支援者で、再審無罪を勝ち取るまで走り続ける所存です。少しでも多くの国民の方々に関心を持っていただき、より良き司法の世にするために賛同と支援をお願いします。

亡き桜井昌司さんは、生前、再審法改正なくして、冤罪の犠牲者は無くなると、おっしゃっておられました。私共は、再審法改正市民の会と共同で、超党派議員連の設立まで漕ぎ着けました。今国会では、この超党派により議員立法が提出され、成立の矢先、与党会派の足並みが乱れ、次期国会へ持ち越しとなってしまいました。

このような議員を選ぶのも国民の一人一人の責任です。冤罪犠牲者を生まないより良き司法の再構築のために、参議院選挙で、どうか皆様、しっかりと選挙にいつて投票しましょう。未来の子供たちのためにも、責任ある参議院議員を選んで参りましょう。(事務局/渡邊泰男)

私のコメント

①驚いたこと：私が今年の冤罪関連のニュースで驚いたことは、袴田事件で無罪判決後に、検事総長が預託し、判決に苦言を述べていた。しかしその後、静岡検察の幹部が袴田さん宅に訪問、謝罪した件です。検事総長は袴田さんを有罪だと思っているのに、部下である静岡検察の幹部が謝罪したことにとっても矛盾を感じ、検察組織の内部に闇があるのだと思いました。

②冤罪犠牲者の会について：私は冤罪関連の団体に複数所属していますが、冤罪犠牲者の会がいちばん会員を大事にしている団体だと思います。1つ目の理由は、まず、レスポンス(メール返信等)が非常に早い、かつ文面が良いということ。2つ目の理由は、会費が安いということ。他の団体は、メールを送信しても返事がなかなかきません。(東京都/山田英明)

私もえん罪犠牲者の会の一員です。

「弟から見る拓哉とえん罪今市事件に巻き込まれて」

今市事件(栃木小1女児殺害事件)は、2005年12月に下校途中の小学1年生の女児が下校途中に失踪し、翌日60キロ離れた隣の茨城県の山林でご遺体となって発見された殺人死体遺棄事件です。私の兄、勝又拓哉は、事件発生から約9年後に、物的証拠は皆無で、ウソの自白と無期懲役にするにはあまりにも弱く曖昧な証拠で、2020年に有罪・無期懲役が確定しました。

健康状態は良好で、今も無実を訴えています。まさか、今、私たち家族がえん罪に巻き込まれることになるとは全く想像もしておらず、先進国を名乗る日本の刑事司法がこんなにも腐っているとは思いませんでした。

そして、国会議員の皆様を説得できれば、再審法改正も成し遂げられると思っていれば、法務検察と仲良しの一部の国会議員の抵抗で、議員による法改正も実現しません。社会にえん罪があつてはいけません。現行の再審法も機能不全です。ぜひ、雪冤・再審法改正に、皆様のお力をお貸しください。

(家族会/高瀬有史)

冤罪をなくすには「取り調べの全過程可視化と全証拠開示」「捏造を行った捜査官の罰則」が必須の事だと思います。冤罪で捜査官・検察官がなぜ捏造までするのかという事は誰も理解出来ない事だと思います。正義を執行する事は大量のドーパミンが出る快感だそうです。事件の度に大量のドーパミンを浴びた捜査官が依存症と同じ症状を発症したと考えればこれらは納得出来ます。大川原化工機事件の捜査官課長や係長の発言などは水原一平氏のギャンブル依存症の報道とそっくりだと思いました。

逮捕にドーパミンが大量に出るなら捜査官の何%かが中毒症状を発症しているもおかしくなく、なくなる冤罪事件の原因に【全過程が可視化されていない取調べ】【捜査官による捏造】【冤罪でも昇進する】現在の法律にドーパミンの暴走を止める術がなく、取り調べという環境自体はマインドコントロールされやすい環境下で洗脳すら可能な環境に置かれるという事だと思います。

専門家ではないので軽はずみな事は言えませんが、冤罪に関する論評でドーパミンやマインドコントロールに触れているものを見た事はありません。これから医学的な検証が必要だと思います。(京都府 江崎三基)